



# 首里城復元に向けて

10月30日（金）

昨年本校2年生が、台風の襲来に悩まされながら沖縄修学旅行から帰った約2週間後に、沖縄の象徴である首里城が、火災により無残にも焼け落ちてしまいました。1992年に沖縄の本土復帰20年を記念して復元された正殿が、なすすべもなく焼け落ちてゆく姿をテレビの画面越しに呆然と見ていました。人々の悲痛な表情は、沖縄の人々の心の支柱も焼失したことを表しているようでした。沖縄の歴史にまた一つ苛烈な思い出が加わってしまったことに胸が痛みました。

あれから1年が経ちました。今朝のニュースで首里城再建に向けての動きが加速しているということを知りました。一刻も早い実現を祈りたいと思います。

今年度の本校の修学旅行は、感染症拡大防止のため残念ながら中止としました。2年生の皆さんにとって貴重な学びの場となるはずの行事を実施できず、申し訳ない気持ちでいっぱいです。

ニューヨークの高層ビルに航空機が突入して崩れ落ちた2001年の「9.11」からわずか3週間後、下妻一高の級監として初めて沖縄に行きました。空港での物々しい手荷物検査や「安保の見える丘」から見える嘉手納基地で緊急離着陸を繰り返す戦闘機の姿は、「有事」という言葉をリアルタイムに実感しました。



戦時中は自然が作った洞窟を防空壕にしていた跡を辿る「ガマ体験」は強烈な印象を残します。生徒達と懐中電灯を片手にガマの奥深くに入り、一斉に明かりを消した闇の中で、飢えや怪我に苦しみながら身を潜めていた人々の姿を想像しました。ガマの外に出ると、当時「鉄の暴風」が吹き荒れていた場所にサトウキビ畑が広がり、デイゴの花が咲いています。沖縄戦で尊い命を失った一人一人の名前が刻まれた「平和の礎」が設置されている平和祈念公園からみる空と海はとても穏やかです。

その旅行中、「ひめゆり平和祈念資料館」での見学後、集合時刻にかなり遅れて女子生徒数名がバスに戻ってきました。他の生徒を待たせ、旅程を遅らせたことに対して理由も聞かずに生徒を叱責した私に、バスガイドさんが優しく声を掛けてくれました。「先生、生徒さん達の目は真っ赤でしたよ。展示された手記を読んでいて時間を忘れたのではないのでしょうか。見学をさっと済ませて土産物屋に直行する学校もあるのに、これほど真剣に見学する生徒が多いなんて、沖縄県民として有難く思います。素晴らしい生徒さん達ですね。」その時の私は、未熟な自分を恥じる気持ちと下妻一高の生徒を褒められた嬉しさ・誇らしさが交錯しました。沖縄を思い出すたびに浮かんでくる懐かしい一コマです。